

現在の長田の街

現在、長田の街では区画整備が進み、マンションも建つようになりました。また、震災で空き地になった場所に住民が畠作りやガーデニングをし、それが地域のコミュニティスペースにもなっています。

しかし、まちづくりはまだ発展途上で、現在でも人口は震災前より少ないままです。特に、被害の大きかった地域では街を離れた人が多く、人口の減少が見られるのが実情です。

<参考図書>街の復興カルテ2004年度版・2005年度版、(財) 阪神・淡路大震災記念協会発行

このように長田区では現在でもまちづくりが進められていますが、まちづくりと同時に震災を忘れないための慰霊碑(モニュメント)も多く建てられています。開発が進みつつも、震災を忘れないまちづくりがなされています。

下の地図は長田区のモニュメントマップです。一度、震災の記憶を伝える震災モニュメントを訪れてみてはいかがでしょうか。



① JR新長田駅／イラスト「こうのとり」タイル

「赤ん坊」を元気の象徴として、赤ん坊(=元気)を運ぶ「こうのとり」をテーマにイラストを募集。集まったイラストはタイルに模写され、新長田駅の上り線ホームに約900点、下り線ホームに約500点置かれています。場所はJR新長田駅。

③ カトリックたかとり(旧鷹取)教会

震災で聖堂などが全焼。しかし、施設の大半が焼けた中、両手を広げたキリスト像は焼け残り、有名になりました。震災後は、聖堂跡に紙製の円柱でできた「ペーパードーム」が建っていましたが、2005年に解体され、1999年に起った台湾大地震の被災地に移設されています。JR鷹取駅から東へ。大黒公園のすぐ南。(神戸市長田区海運町3)

② アスタくにづか／神戸の壁

神戸大空襲と阪神・淡路大震災の二つの大火に耐えた被災地のシンボル。もとあった若松町3丁目の市場から再開発ビル「アスターにづか」に移転して展示されています。場所はJR新長田駅を南へ10分。(神戸市長田区腕塚町5)



資料室からの
お知らせ

企画展「定点観測写真展—変化する街の様子とその記録—」

センター所蔵の定点観測写真を紹介する企画展を開催します。震災後の街の移り変わりを見ることができます。8月8日(火)から9月18日(月)まで、防災未来館1Fロビーにて開催。(1Fロビーは入場無料)

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 資料室(防災未来館2F)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区浜海岸通1-5-2
TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

〈開室時間〉 9:30~17:30 (7~9月は18:00)

〈閉室日〉 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)・12月29日から1月3日

資料室は無料で
お入りいただけます。

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

資料室 ニュース

Vol.29

2006年6月27日

●発行●

特集「被災地・長田を知る」

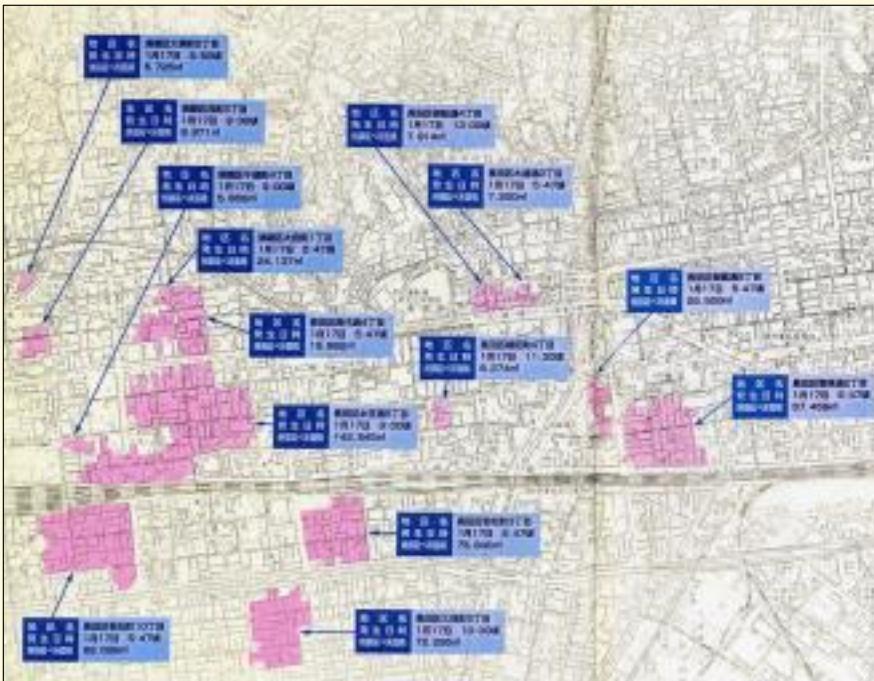
阪神・淡路大震災では、地震の揺れによる建物倒壊の被害だけでなく、地震後の火災の被害も深刻なものでした。火災によって亡くなられた方も大勢います。今回は、特に火災の被害が大きかった神戸市長田区を例にあげ、阪神・淡路大震災での火災の被害と、その教訓を生かした取り組みなどをまとめてみました。



長田区の被災状況

神戸市内では、地震が起きた1月17日午前5時46分直後から火災が発生し、27日午前5時45分までに合計175件の火災が発生しました。長田区の火災件数はうち27件ですが、焼けてしまった延べ床面積を見ると約524,000m²。神戸市全体の焼けた面積は約819,000m²ですから、長田区の被害は神戸市内の焼失延べ面積の64%に当たります。神戸市の火災被害の半分以上は長田区で起きたことがわかります。そして、長田区では火災により255名の方が命を落としました。長田区には在日韓国・朝鮮人、ベトナム人、中国人などの外国人居住者も多く、外国人も犠牲になりました。

この地図は、焼失延べ面積が5,000m²以上の地区を示した地図です。長田区では10地区で大きな火事が起ったことがわかります。特に須磨区に近い西側において、広い範囲で火事が起こっています。火災が広まった原因是、①長田区に多いケミカルシューズ工場のゴム製品に火が移って火事が大きくなったり、②地震によって倒壊した家屋が道をふさぎ、隣の街区にまで火が燃え移った、③ガス漏れがあった、などが考えられています。



<引用地図>阪神・淡路大震災における火災状況(神戸市域), (財) 神戸市防災安全公社発行

<取材協力>神戸市危機管理室、神戸市消防局予防課調査係

火災被害を物語る資料

表紙のページでご説明したように、長田ではとても広い地域で火災が起きました。そして、火災によって、人の命、建物、人々の大変なものが失われました。

人と防災未来センターには、長田区の市民や団体から寄贈された、当時の被害を知る大切な資料が収められています。その中で火災の被害を物語る資料を一部ご紹介します。

火災で焼けこげたトレーナー



長田区日吉町で、震災直後に起きた火災の犠牲になった中学3年の男の子が生前着用していたトレーナーの一部。寄贈者である当時高校3年の姉が自宅の焼跡から拾い出した唯一の弟の遺品。当時、家屋倒壊で母親、姉弟の3人が瓦礫に埋もれた。母親と姉は救出されたが、弟は逃げ遅れた。「自分はいいから、お母ちゃんとお姉ちゃんを助けて」と最後まで気遣っていた、と姉は語る。

(提供:玉島裕子氏)

(資料番号:0000402-001001-001.00001)

長田区大國公園の東側にある、鷹取商店街の看板の一部。これは「鷹取商店街」という文字のうちの「街」と書かれた部分だったが、火事によって字が読めないほど溶けてしまっている。看板のほとんどの部分は完全に溶けてしまい、「街」の部分は損傷がましまったほうだという。「街」の部分は、震災以降、地元のまちづくり協議会、まちづくり会社などいろいろな方の尽力によって保存され続け、現在は人と防災未来センターに所蔵されている。

(資料番号:3100411-002001-001.00001)

鷹取商店街アーケードの看板



焼けた裁ちバサミ



長田区御蔵の民家の焼跡から掘り出された、火災で焼けた裁ちバサミ。この裁ちバサミは、震災の5年前に亡くなった寄贈者の夫の遺品。夫は紳士服の仕立ての仕事をしていた。自宅には他にも裁ちバサミを置いていたが、焼跡からはこの1本しか見つからなかったという。

寄贈者の自宅は全焼したが、寄贈者は火がまわる前に逃げて無事だった。しかし、なぜか震災当時の記憶がないと語ってくれた。

(提供:山本康子氏)

(資料番号:1400561-000001-001.00001)

教訓を生かした現在の取り組み

震災で大きな火災被害を受けた長田区では、震災の教訓を生かしたさまざまな取り組みがなされています。現在、火災被害の教訓がどのように生かされているのか、その一部を見てみましょう。

“消火のための設備を整える取り組みく防火水そうの整備”



長田区には、多くの公設の防火水そう（耐震性防火水そう25基、その他の防火水そう71基）が設置されています。（※1）防火水そうとは、主に公園の地下などにある水をためたタンクで、火事のときに地下から水を吸い上げて消火に使えるようになっています。特に、耐震性防火水そうは震度6に耐えうると認められたもので、地震に強い防火水そうです。震災後は、火災被害を減らすための設備の整備も進みました。

<参考図書>安全で安心なまちづくり、長田区役所・神戸市市民局編集

※1) 平成11年3月時点でのデータ

“助け合いの輪を広げる取り組み

<長田ボランティアセンター・それいけネットワークの立ち上げ>



阪神・淡路大震災の年の1995年4月、社会福祉法人神戸市長田区社会福祉協議会の中に、長田ボランティアセンターが立ち上げされました。長田ボランティアセンターは、だれでもが気軽にボランティア活動に参加できる基盤作りを目指して、ボランティア講座の開催や、ボランティア活動の支援を行っています。この取り組みは、震災の時の人々の助け合い、ボランティア活動が原点といえます。

<URL><http://www.nagatavc.org/vc/>

関連図書の紹介



その他の取り組みについてもっと知りたい方は、人と防災未来センター資料室で調べてみてください。

題名	著者・記事作成者	発信者・発行者
長田消防団 祈りの足跡		神戸市長田消防団
被災二年間の活動記録集：長田の良さを生かした街づくりについて		神戸商科大学街づくり研究チーム
新長田駅北地区土地区画整理事業まちづくりノート		(株)久保都市計画事務所
長田区医師会のあゆみ		神戸市長田区医師会
長田隨想	鄭承博	ひごろ書房
神戸・長田スケッチ 路地裏に綴るこえ	佐野由美	(株)六甲出版
世界のことばで長田から		(株)エフエムわいわい
長田区60年の歩み		長田区役所まちづくり推進部まちづくり推進課・まちづくり支援課
災害救援の視点：神戸市長田区からの世界へ	野田正彰・青木しげゆき・伊佐秀夫・池田清	関西学院大学出版会
それぞれの記憶		長田南ブロック区域同推 駒ヶ林中 長榮小二葉小大橋中神榮小 真陽小
愛と涙のゴリラたち：ボランティア達の半年間	池田雄一	野のはな文庫